

## 市の財政は 大丈夫？

5年連続で貯金を崩す厳しい状況です

27年度の決算額では、歳入額が歳出額を上回っています。しかし、実際には、市の貯金である財政調整基金などを取り崩して収支のバランスを保っています。今後もこの状況が続けば、貯金が底を付く恐れもあり、ますます厳しい財政状況になることが予想されます。

### ■市税収入が減少しています

景気回復の遅れや、働く世代(15～64歳)の減少などにより市税収入が低迷しています。特に、市の収入の中で大きな割合を占める個人市民税は、20年度に比べ約16億円が減少し、財政運営に大きな影響を与えています。

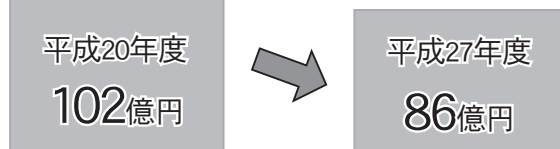
### ■社会保障費などが今後も増加の見込みです

医療や介護などの社会保障費が、20年度に比べ約55億円増加しています。また、公共施設の多くが築後30年を経過しており、このまま全ての施設を保有し続けていくためには、年平均で約46.5億円の費用が必要になる見込みです。これは、26年度までの過去5年間で維持管理に要した年間費用の約2.2倍になります。

#### 貯金 財政調整基金残高



#### 収入 個人市民税額



#### 支出 民生費（社会保障費など）



## 健全な財政運営に 向けた取り組みは？

お金の使い方、集め方を見直していきます

次の取り組みを進め、次世代につながる健全な財政運営を目指します。

- ▶働く世代の人口減少を食い止めるため、企業の誘致、雇用の創出、子育て支援、教育の充実などに取り組みます
- ▶ふるさと納税制度の活用など、財源の確保に努めます
- ▶事業の整理、統合、廃止などの検討を進め、支出の見直しをしていきます
- ▶施設の使用料や証明書発行の手数料などは、サービスに応じた受益者負担となるようバランスを検討します

### ■市財政の健全化判断比率・資金不足比率を公表します

27年度決算に基づく状況は、次のとおりです。

#### 【健全化判断比率】

指標	内容	比率	早期健全化基準
実質赤字比率	一般会計などの赤字の大きさ	赤字なし	11.95%
連結実質赤字比率	市全体の赤字の大きさ	赤字なし	16.95%
実質公債費比率	その年の借入金などの返済額の大きさ	2.1%	25.0%
将来負担比率	借入金残額など、今後支払う必要のある負債の大きさ	20.0%	350.0%

#### 【資金不足比率】

事業会計名	比率
水道事業会計	不足なし
下水道事業会計	不足なし

※左のいずれかの基準値以上となった場合、財政状況が悪化していると判断されます

# どうなっているの？

# 狭山の台所事情



市では毎年、予算の執行状況や決算について公表し、市民の皆さんが納めた税金がどのように使われているのかをお伝えしています。今月は一般会計、特別会計の決算概要と現在の財政状況をお知らせします。

## 一般会計

市の運営をするための基本的な経費が一般会計です。

## 27年度 決算の状況

歳出総額は  
約453億円です

### 歳入総額(収入)

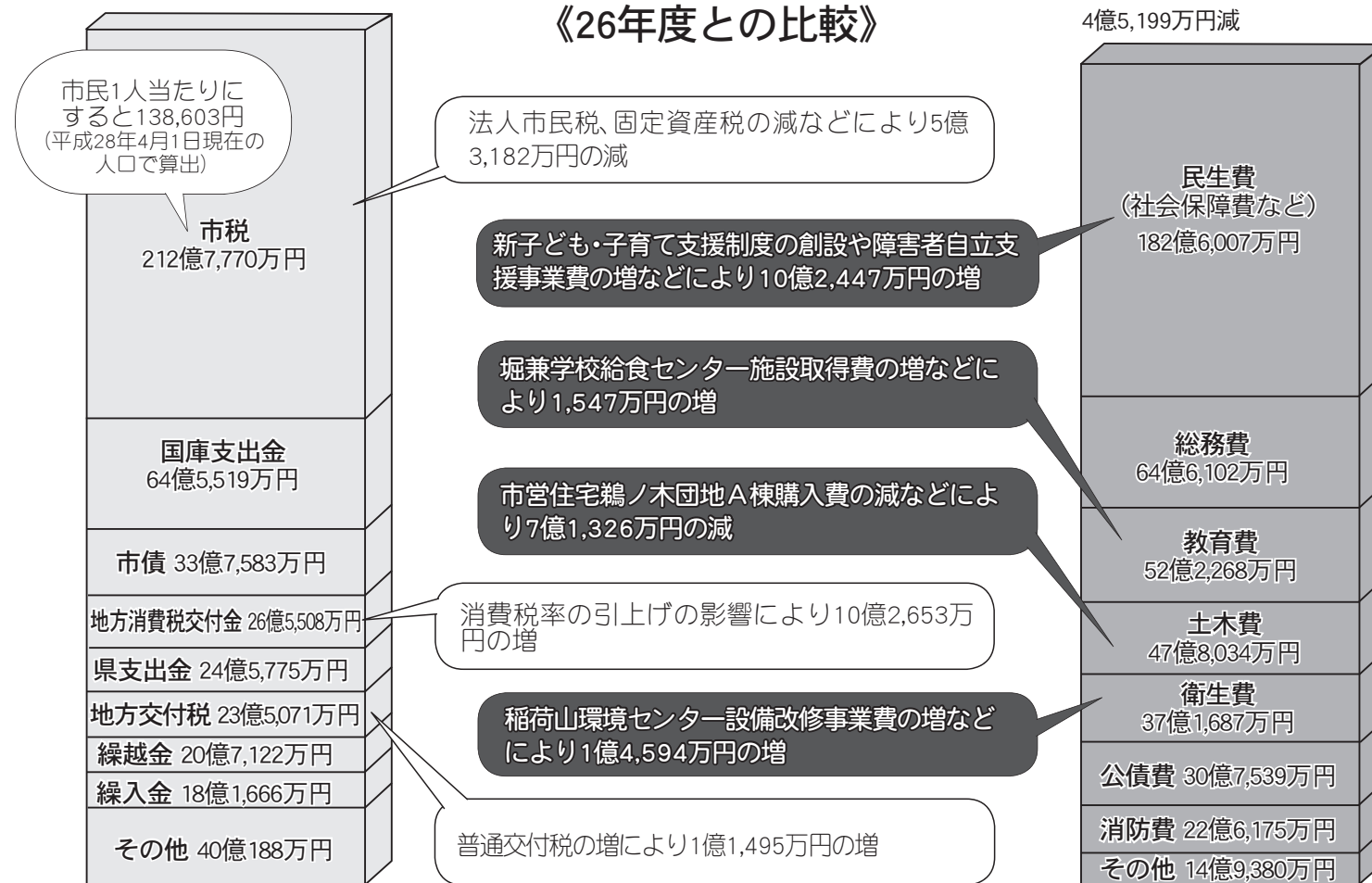
464億6,202万円  
前年度比(2.8%減) 13億3,311万円減

歳入から歳出を引いた残額 11億9,010万円を28年度に繰り越しました

### 歳出総額(支出)

452億7,192万円  
前年度比(1.0%減)  
4億5,199万円減

### 《26年度との比較》



## 特別会計

特定の歳入歳出を一般の歳入歳出と区別するための会計が特別会計です。

	歳入	増減率	歳出	増減率
国民健康保険	204億5,527万2,171円	11.4%	200億6,043万4,423円	11.7%
狭山市駅東口土地区画整理事業	5億3,241万6,943円	△39.8%	3億5,786万4,102円	△45.5%
介護保険	91億7,709万5,389円	5.9%	86億7,462万4,491円	5.5%
後期高齢者医療	16億4,963万327円	4.0%	16億3,545万7,618円	4.2%